

ループホームについては、今後、検討していきたいと考えています。

●その他の質問事項  
・三重への「旅人」



**ホームページ「三重県戦争資料館」**  
平和政策、平和教育

中村 進一議員  
新政みえ(伊勢市選出)

**問**

県議会では平成九年に「核非平和県宣言」を全会一致で決議しており、県としても平和政策を打ち出すべきだと何度も提言してきました。

来年度は戦後六十周年を迎えることとなりますが、まず、知事の平和に対する思いをお聞きします。一方で、人々の心から確実に戦争の悲惨さは風化しています。こうした中、三重県のホームページの中に「三重県戦争資料館」(<http://www.pref-mie.jp/seishoso/heiwa/>)が開設されました。これは、三重県遺族会の皆さんが、子どもや孫に二度と悲惨な戦争体験をさせないとの思いから、膨大な作業をしていただいで完成したものです。一人でも多くの方に利用していただけるよう、

今後もその内容の充実を図っていくべきだと考えますが、所見をお聞きします。

**答**

昨今の国際情勢がますます緊張の度合いを増していく中、今こそ平和の尊さに対する認識を

深め、世界の恒久平和を確立していくことが、ますます重要な時ではないかと考えています。県民しあわせプランにおいても、「くらしの安全・安心が確立された社会」を掲げており、そのためには、戦争のない平和な社会であることが大前提であると考えています。また、「三重県戦争資料館」は、戦争に関する様々な事実を次世代に引き継ぎ、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えていただくために開設しました。今後は、更新していく中で、関係部局が連携して、より多くの方々に活用していただけるよう、その内容を充実するとともに、このホームページの周知に努めます。また、このページは、学校での学習において、当時の苦労や様子を知り、「平和の尊さ」を考える教育を推

三重県戦争資料館HP



進する上で、有効であると考えています。

●その他の質問事項  
・介護保険制度の見直し

他

**真の協働を**

NPO推進

貝増 吉郎議員  
自民・無所属公明議員団(桑名市選出)

**問**

県は「NPO(特定非営利活動団体)等との協働」という言葉を頻繁に使います。本来、その協働とは、互いに独立性を持ち、目的を同じくしてそれぞれの特質や資源を持ち寄り、事業を企画、実施して、その成果をチェックし合うものです。しかし、現状では、単なる住民参加事業で終わったり、県の施策にはNPOを育てていこうとする姿勢が見受けられません。そこで、NPO等が活動しやすい環境づくりを図り、県とNPO等との協働を充実させるために、「中間支援組織」への一層の支援が必要だと考えますが、その取組をお聞きします。また、知事が本日に「新しい時代の公」の実現を熱望するのなら、NPO支援室を知事直轄の組織とすべきと考えますが、所見をお聞きします。

**答**

現在、NPO等への支援に取り組む「中間支援組織」が県内各

地域に15カ所設置されていますが、NPO等が県との協働事業を担っていくためには、その役割がますます重要になると考えています。県では、これまで、この「中間支援組織」に対して、情報やノウハウの提供、各支援組織相互の意見交換や情報交換の場づくり、地域のN

PPO等のネットワークづくりの調整などの支援を行ってきたところですが、今後、さらに支援の充実に取り組みます。また、「新しい時代の公」の推進については、外部委員で構成する調査委員会等で検討を進めていますが、この中で、NPOとの協働を進めるための体制づくりについても検討していきたいと考えています。

●その他の質問事項  
・高齢者福祉施設整備事業に関する知事のスタンス

他

